



Bコープ企業が切り拓く 新しい資本主義の姿

くろだ ゆきこ
黒田 由貴子

わが社、ピープルフォーカス・コンサルティングは、2023年2月に、国内では20社目となるBコープ（B Corp）認証企業となりました。「Bコープ認証」とは、米国の非営利組織であるBラボ（B Lab）が社会や環境に配慮した企業に与える認証です。2007年に認証制度が開始されて以来、世界中に広がりを見せています。2023年3月現在、全世界で6,165社が認証されていますが、Bラボ創業者の一人であるパート・ホウラハン氏は「新型コロナ禍以降、認定を申請する企業が急増している」と述べており、1万社を越す日も遠くないことと思われま

す。BコープのBとはBenefit for Allを意味しており、Bコープとは「すべてのステークホルダーに有益な組織」ということです。現在、株主至上主義による資本主義が地球や社会の持続可能性を脅かしたことで、ステークホルダー資本主義という概念に代表される新しい資本主義の在り方が模索されていますが、その先鞭をつけるのがBコープ認証企業と言えます。実際、弊社の認証取得後に「新しい資本主義実現会議」の事務局を担う内閣官房の方々からヒアリングを受けました。

Bコープ認証の知名度が高いヨーロッパでは、Bコープ認証企業が店舗の入り口にロゴ

を掲示したり、スーパーの商品陳列棚に「Bコープ認証企業の商品」という表示があったりします。多くの消費者のブランド選択の基準になっているのです。



Bコープのロゴ

Bコープ認証企業になるには、Bラボが定める200点満点の基準のうち80点以上を獲得する必要があります。認定基準はインターネット上で公開されており、誰でも自己アセスメントできます。200点のうちの80点と聞くとさほど難しくないように思うかもしれませんが、ある企業経営者の方が試しにやってみたところ「10点しか取れなかった」と言っていたほど、基準は厳格です。

自己アセスメントを経て、80点以上の見込みが立ったら、Bラボに審査の申請を行います。その際には、基準を満たしていることを示す証拠となる資料原本などの提示が求められ、審査委員によるインタビューもあります。

審査項目は「従業員」「コミュニティ」「環境」「ガバナンス」「カスタマー」の5つの分野です。アセスメントは大変精緻に作り込まれ

ていて、審査対象企業の業種や規模などに応じて、質問項目や評価基準が変わってきます。

弊社がBコープ認証の取得を目指したのは、自分の個人的な体験が強く影響しています。今から30年ほど前、イギリス滞在中に「ボディショップ」という会社を知り、ビジネスと社会貢献は対立するのではなく、両輪として共存しうることに衝撃を受けました。

その後、1994年に株式会社ピープルフォーカス・コンサルティングを創業し、ビジネスを通じた社会貢献という新しい経営の在り方を模索してきました。具体的には、社会課題解決型事業リーダー育成プログラムを提供したり、2003年以降は毎年、売上高の1%を社会貢献活動に寄付したりしてきました。

近年はSDGsやESG投資、サステナビリティ経営などの考え方が浸透し、どこの企業も社会への貢献を掲げるようになってきました。そこで、弊社の取り組みが、他社と比べても誇れるレベルにあるのかを検証したいと思うようになりました。また、さまざまな企業の取り組みに対して「言っているだけ」「やっているふり」という批判の声が世間から挙がるのを目にし、われわれも外部機関からお墨付きをもらうことが必要だと考えました。そこで、Bコープ認証に挑むことにしたのです。

自己アセスメントの結果、合格基準の80点を超えるために必要な改善項目が30個程度洗い出されました。それらをテーマごとに分類

し、7つの分科会を立ち上げることになりました。社員からの提案で、全員がいずれかの分科会に参画することとなりましたが、それが本当に良かったと思います。自分の会社がどうあるべきかを一人ひとりが考え、その実現に向けて動いたからです。まさに全員経営の実践と言えるものでした。合格の通知が来たときの社員の喜びもひとしおでした。

Bコープ認証は取得がゴールではありません。むしろスタートだと言えます。認証を維持するためには、3年ごとに再審査を受ける必要があります。さらに、この認証に関して印象的だったのは「Bコープはムーブメント」というBラボの考えです。例えば、弊社が合格した際に送られてきたメッセージには「ムーブメントへの仲間入りです！」と書かれていました。ムーブメントの標語としてBラボが掲げているのが「Make Business a Force For Good」（ビジネスを、社会をより良くする力にする）。つまり、企業活動によって環境や社会が劣化していくのではなく、良くなるような経営をするということです。

協同組合や非営利法人のような団体も、Bコープ認証の自己アセスメントツールを使って、自組織の点検をされてみてはどうでしょうか。

(株式会社ピープルフォーカス・コンサルティング 取締役・ファウンダー)